



渥美ロータリークラブ 創立 / S 44.4 承認 / S 44.4  
 例会日 / 毎週水曜日 12:30  
 例会場 / 蒲郡信用金庫渥美支店 2F  
 例会事務局 / 愛知県田原市福江町堂前 50-6  
 蒲郡信用金庫渥美支店 内  
 TEL / (0531) 33-0511 (代) FAX / (0531) 32-1251  
 URL / <http://www15.ocn.ne.jp/~atsumirc/>  
 会長 / 三浦正好 幹事 / 小松浩 会報委員長 / 彦坂陽一

第 2338 回 No. 35 (2016 ~ 2017) 3月29日 (水)

<司 会> 牧野竜之 SAA  
 <ゲスト> 藤村 昌代 様

<齊 唱> 国 歌「君が代」  
 R・S「手に手つないで」



<会長挨拶> 三浦正好会長

さて、いよいよ決算月の大詰めとなっています。確定申告にもなります。先ほど、小笠原会員は今日会場に入ってくる時、調子が悪いと入ってきた。何が調子悪いのかと尋ねると、決算時期で精神的なプレッシャーがかかると言っていました。

河津桜は葉桜となってしまいましたが、その代わりにソメイヨシノの開花の時期となりました。また、学生や社会人の引っ越しの時期となり、慌ただしい時期です。大変な時期ですので、皆さん気を付けて乗り切ってください。

私個人のパスポート紛失の件で、先週市役所に行ってきました。大変面倒だった。今度紛失したら

10年間再発行ができないと宮川会員に脅されましたが、いろいろ調べてみますと、まったくそんなことはありませんでした。以上です。

<幹事報告> 宮川智弘副幹事

1. 定例理事役員会のご案内
2. 例会臨時変更および休会
3. 4月の予定及び次例会のご案内
4. 井本会員の母親の葬儀告別式の件
5. 豊橋北 RC オペラ公演会の件
6. 募金の件

<スマイルボックス>

山本博正スマイルボックス委員長

- 三浦正好会長  
藤村昌代さんをお迎えしました。遠くからありがとうございます。
- 牧野竜之 SAA  
藤村様、本日はスピーチよろしくお願ひします。
- 宮本智弘会員  
藤村昌代様スピーチよろしくお願ひします。
- 土井文好会員  
骨折してから半年ぶりのゴルフに行ってきました。完全復活です。

<出席報告> 山本博正出席委員長

会員数 36名  
 出席計算に用いた会員数 34名  
 本日欠席 9名 出席率 73.53%  
 先々回補正 2名 補正出席率 70.59%

<4月のスケジュール>

4月5日→6日 ライラセミナー報告 4名  
 12日 ゲストスピーチ 林養魚(株) 代表取締役 林邦康様  
 19日 ゲストスピーチ 渥美福寿園 西浦聖人様  
 25日 ゲストスピーチ  
 (有)オレンジボックス 代表取締役 清田高博様  
 (TVカメラマン)

○千賀洋一会員

今日は日原いづみさんではなく、藤村昌代さんなのですね。ようこそ渥美クラブへ。スピーチ楽しみにしています。

### 〈委員長報告〉

荒木誠一社会奉仕委員長  
フォトコンテストの件

### 〈ゲストスピーチ〉 藤村昌代様



スーパーアツミ山田店で買ったみうらやさんの麺がほんとうに美味しくて、それをネットに書き込み、三浦会長と知り合うこととなりました。

まずは自己紹介をさせていただきますと、藤村昌代というのは旧姓、石神で生まれ育った名前です。今は菰田といいますが、夫は先祖が田原出身で、現在は豊橋に住んでいる。保・小・中学校と泉で育ち、高校は豊橋南です。彦坂会員や神谷会員の娘さんとは、私の妹と同級生です。昔からこの地元を出たくて、何とか東京に出たいと思っていました。早稲田大学に行き、卒業後、TVのADをやり、美術作家の助手をした。TVからの情報を受ける世代で、TVから感動を受けていたが、感動を伝えられる人になりたいと思うようになりTVの仕事をした。

そこから絵を描いたり、写真を撮ったり、小説を書いてみたりした。最初に書いた小説が、講談社の群像新人文学賞に応募したところ、1700作品の中の5候補まで残り、それがきっかけで小説を書くという道を決めたのが25歳だった。

私が東京に出たとき、もう地元には戻らなくていいと思っていたが、どうして戻ってきたかという、大学3年生の時、高速バスで帰ってくる時渥美半島にだんだん入ってくると、伊川津から見える山々の風景が変化して見えて

きた。今でも泣けてきます。海だったり、山だったり、かけがえのない自然を見たとき、段々自分の気持ちが変わってきた。大学には、自分には故郷がないという友達もいる。故郷を持つことが出来ない人がいるんだと思ったことや、闇が闇であることが大切であることを教えてくれた友人がいた。それからこちらに戻ってきて、小説を書くようになった。

私が今、豊橋に住んで、豊橋から発信しているということは、この地域をよりよくしたいという思いからです。2冊目の小説を出したとき、日原いづみというペンネームを付けた。いづみというのは地名からで、ペンネームにしたのは思いつき表現したかったためです。

とにかく私の小説には、渥美の自然を文章に込めて、物質的な豊かさじゃなく、心の豊かさが大切だと思った。

昔のぐちゃぐちゃな地元の関係の中で育ってきたが、悪い人を排除するのではなく、いろいろな個性を受け入れて、みんなで大切にこの地域で過ごしていくことを、この地域で育ていく中で教えてもらった。今後この地域を大切に、未来の子どもたちのために愛を持って育ていくことの大切さを伝えるのをみんなで頑張りたい。



(文責 朽名)